００７　ｙｕｋｏ

題名	著者	コメント
Ｒ・Ｐ・Ｇ	宮部　みゆき	震える岩を読んで、やっぱり宮部さんはおもしろいわ・・と納得していたが、ネットの社会を描いたこのロールプレーイングゲーム また違った感じで面白かった
さゆり（上、下）	ｱｰｻｰ･ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝ	映画で観たものとは数段に本の方が良かった。ありがちな日本＝芸者というのではなく、緻密に芸妓の世界を描き、その手法（さゆり自身に昔語りをさせる）も新鮮で面白い。あやうくモデルがいて、実際の出来事かと、騙される所だった。
役者の青春	中村　勘九郎	勘三郎さんが、まだ勘九郎だった頃の出来事が、楽しく語られている。芸妓と歌舞伎役者の小説を書き始めたので、つい買ってしまった。もうずい分古い本だが、参考になった。
菊　日　和	津村　節子	好きな津村さんの短編。 ６編からなるが、やっぱり上手い。 表題の「菊日和」は亡くなった弟の墓に命日になると供えられるきれいに剥かれた蜜柑。それは弟の妻が具えたものではなく・・・ 「恋人」にも似たようなストーリーがあったのだが、６編とも女の心情をうまく捉えている。
女の椅子	津村　節子	夫に裏切られた妻が家を出て、家政婦会で働き・・・とくると、お決まりのストーリーかと思って、読んでいなかったが、意外に面白く読めた。
コットンが好き	高峰　秀子	高峰秀子の潔い生き方が好きで 読んでみようかな・・と思ったエッセイ、物を知るきっかけにはなった。
眠らない少女	高橋　克彦	著者自薦の短編１０編。 初期のもので、記憶シリーズに繋がる作品もある。「緋い記憶」に入っている「ねじれた記憶」がやはり一番面白かった。

解　夏	さだまさし	映画が面白いと思わなかったもので、偏見から読んでいなかったがふとした事で手に取った。短編４編によるが、表題作よりも「秋桜」が特に良かった。どの作品も読んで優しくなれる。
恋　人	津村　節子	短編集、津村さんは短編も面白いけれど、歴史的な女を描いた長編の方が面白いと思う。ただ、短編の構成には勉強になる所が多い。
死者はまどろむ	小池　真理子	サイコサスペンスというのか、不思議な感じの物語。モダンホラーとあったが、それ程怖さもなく、う～ん・・という感じ
もうひとつの出会い	宮尾　登美子	宮尾さんのエッセイ。「手こぼしの記」と重複する箇所があったが、面白かった。宮尾さんは確かに、ある意味我儘で、苦労知らずの人なのか・・という感じも持つ。
地に伏して花咲く	宮尾　登美子	自伝的な随筆。 これを読んで、ますます物書きへの夢がふくらんだ。 え・・？と思うような、違うぞ・・ と思うような所もあるのだが、それは宮尾登美子だから許されるのかも。
天涯の花	宮尾　登美子	１５歳まで施設で育った少女が、雪深い山の神宮の老夫婦の元に養女として貰われ、大人になっていく過程。高山のこの地でしか咲かないという「キレンゲショウマ」には興味を持ったが、主人公が若いという事もあってか、内容的には今ひとつ。いつもの宮尾さんらしくなかった。